

令和6年8月14日

浜田市議会議長 様

議員名 大谷 学

## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

### 記

#### 1. 視察先

- ・いすみ市役所 (千葉県いすみ市大原 7400 番地 1)
- ・練馬区立石神井公園ふるさと文化館 (東京都練馬区石神井町 5 丁目 12-16)

#### 2. 視察事項

- (1) いすみ市高齢者等買い物支援対策事業について
- (2) 大原漁港の朝市について
- (3) 全国有機給食協議会について
- (4) 複合施設としてのふるさと文化館について

#### 3. 視察の目的 (市政との関連など)

有機米や高齢者対策や朝市および複合施設の先進地の取組を学ぶことによって常任委員会や個人一般質問での提言の参考とするため

#### 4. 期間 (移動日を含む)

令和6年7月29日(月) ~ 令和6年7月31日(水)

#### 5. 経費

78,413円  
(経費内訳 旅費 76,573 円、その他 1,840 円)

#### 6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

- (1) いすみ市高齢者等買い物支援対策事業の実態を把握し、浜田市への導入を探る。
- (2) 大原漁港の朝市の発展の経緯を把握し浜田漁港の活性化策を検討材料とする。
- (3) 学校給食有機米 100%実現の経緯を把握し、有機米の産地化を探る。
- (4) 複合施設としてのふるさと文化館の運営等を浜田の文化複合施設に活かす。

#### 7. 視察内容

(詳細は別紙のとおり)



# 調査研究活動の概要（いすみ市・練馬区）

## ◆いすみ市の概要について（令和6年4月1日現在）

人口：35,075人 世帯数16,931世帯 面積157.50k㎡

- ・いすみ市は、平成17年に旧夷隅町と旧大原町、旧岬町の3町が合併。
- ・千葉県の南東部に位置し、市の東側は太平洋に面し、北部は長生郡一宮町、睦沢町に、西部は大多喜町に、南部は勝浦市、御宿町に接している。
- ・市の北東部には九十九里平野の南部に位置する太東岬があり、ここで九十九里浜の浅瀬が終わる。北西部はなだらかな房総丘陵に位置しており、夷隅川流域には水田地帯が広がっている。
- ・沿岸地域の平坦部と内陸部では米や野菜の生産、畜産などが営まれ、親潮と黒潮が交わる沖合には良好な漁場（東京ドーム2,700個分の魚礁）があることから、イセエビや真ダコ、ヒラメなど、豊富な海の幸に恵まれている。

## （1）いすみ市高齢者等買い物支援対策事業について

- ① いすみ市では、令和3年から高齢者等買い物支援対策事業を実施しており、事業者に対し人件費、燃料費、車両経費など年300万円を助成しており、3年度から5年度まで、NPO法人による「まごころ便」事業を行い、NPO法人の撤退により6年6月からは「ヤックスの移動スーパー」として新事業を開始した。
- ② 事業の創設は、高齢化、事業後継者不足などの影響から商店街が衰退し、個人で経営していた食品や生活雑貨販売のスーパーや商店などは、幹線道路沿いに開店した大型スーパーなどの進出により閉店したことから、二次交通の弱さや健康状態の厳しい高齢者などへの生活支援として事業を開始した。
- ③ 事業主体のヤックスはドラッグストア、かかりつけ薬局、在宅医療、介護サービスとあんしん生活支援、スーパーマーケット、スポーツ用品販売のアタック5などを展開しており、他エリアでの移動販売実績もあり、比較的スムーズに事業化できた。デイサービス事業者でもあることから高齢者サービスなどに行き届いている。
- ④ 移動スーパーは市域を5地区に分け、毎週月曜コースから金曜コースとして市内全域を巡回し、それぞれ8か所～11か所の訪問場所に時間を指定し、そこに集まった利用者に対し移動販売している。
- ⑤ 移動販売車1台当たり、品目点数は700品目で総菜や弁当も扱っており、訪問場所で注文を受け次回に持ち込み販売し、また電話やFAXでも注文を受けている。
- ⑦ 市として市広報やHPなどで周知を図っており、利用者は年々微増しており、包括連携協定を結んでいる市への6月度実績報告では、売上げ一人当たり客単価は、平均1,500円となっている。
- ⑧ 事業に対する市民の評価や反応その成果は、3年度から事業を開始しており、市民や利用者のニーズにすべて対応できていない面はあるが、巡回コースの利用者から「移動販売があり助かる」「利用者同士のコミュニケーションがとれる」な

どの声があり、外出困難な高齢者に楽しんでもらうなど重要で必要不可欠な事業である。

- ⑨ 高齢者の見守りなど高齢者福祉について、庁内の健康高齢者支援課とは情報共有など連携を図っているが、民生委員や社会福祉協議会との連携体制はなく今後の検討課題である。

### 【所感】

- ・ 通常1,500万はかかる経費を市からの補助を300万で事業者ヤックスが指定管理を受けている。事業者ヤックスはドラッグストア・かかりつけ薬局・在宅医療・介護サービスとあんしん生活支援など多様な事業を展開する地元企業で地元貢献という社会的使命感をもってやってくれているとのこと。経営基盤がしっかりしているからできることとはいえ敬服に値する。
- ・ 標準以上の賃金を提示しても運転手の確保は苦労があるとのこと、労務環境の改善はどの職種でも重要な要素を改めて感じた。
- ・ いすみ市は曜日毎にコースを設定して丁寧に地域を巡り運営しているが浜田市はいすみ市の約4倍の面積を有するので同様の展開は難しいだろうが、生活協同組合との連携など、これまで想定していない既存の事業者との可能性も検討していきたい。



いすみ市役所市での視察の様子

## (2) 大原漁港「港の朝市」について

### ◆「港の朝市」概要について

会場：大原漁港の荷捌き所周辺 時間：8：00～12：30（基本的には毎週日曜日に開催）

- ・ 魚介類の水揚げの種類が豊富な大原漁港で開催する朝市は、生鮮魚介類や干物、生鮮野菜、果物などの地元特産品や農水産商工産品を豊富に揃えている。
- ・ 会場で購入した海産物や干物がその場で食べられるバーベキューが大好評。
- ・ 8月から解禁となる器械根イセエビ（漁獲された場所、200g以上の基準）や、伝統的なタコツボ漁はいすみ市だけであり、漁獲された太東・大原産の真ダコの2つは千葉ブランド水産物認定品で、いすみ市ブランド認定産品でもある。
- ・ 特に朝市に合わせた「夏のイセエビ祭り、冬の地ダコ祭り」は、一段と賑わいを創出している。
- ・ 海釣りが1年を通して楽しめるため遊漁船（釣り船）が多い。

- ・ 市内で新鮮な魚介類を食べることができる料理店は 50 業者ある。（大漁旗や店舗の外壁に一目で分かるようなデザイン）

- ① 開催経緯は H24 年市長からの指示。市、商工会が起点となって「港の朝市」運営委員会を設立。（先進地、神奈川県三浦市の三崎朝市を視察）主要なメンバーは市、商工会、水産業者（加工、卸売り）、農産物直売所等の方々で取組んだ。
- ② H24 年 5 月の開催から約 10 年間、官民共同で運営してきた。コロナ禍において蔓延防止や緊急事態宣言下で行動が制限され、市民の経済活動が停止する懸念から、行政に頼らない自主運営の機運が高まり、令和 3 年 6 月 自主運営する朝市協同組合を設立し、現在まで運営している。
- ③ 行政の役割として年間約 10 万人訪れる観光のコンテンツから、関係団体の調査依頼などに対応しており、市の HP や広報誌に掲載して PR 活動もしている。異業種の集まりであるため、行政が意見調整や資金等の支援も行ってきた。（担当課は水産商工観光課）
- ④ 来場者数の推移はコロナ禍前までは 1 開催あたり 1,000 人程度の来場者。コロナ禍以降の来場者は、2,000 人～2,500 人となり順調に伸びている。ゴールデンウィークや 3 連休、TV 取材の放送、SNS のインフルエンサーの発信後には 3,000 人～3,500 人 来場者が増える傾向である。
- ⑤ 年間約 10 万人の客数と 1 億 2,000 万円の売り上げ。来場者は AI で分析した車ナンバー調査から近隣が一番多い（袖ヶ浦ナンバー 50% 位）、千葉県内で東京に近いエリアから 30%、その他（神奈川県、埼玉県、都内）は 20% 開催期間中にイセエビ祭り、地ダコ祭りをすればイセエビや真ダコが賞品となるスタンプラリー（年間 4 ヶ月間）は人気で、県外の人参加が非常に多い。また、朝市はいすみ市を初めて訪れた人達を案内する接待の場所でもある。
- ⑥ 魚種としては、夏はイセエビ、冬は真ダコ、サワラ、ヒラメ、フグが中心で、通年ではワラサや真鯛である。
- ⑦ 行政は毎年 500 万位補助金をだしていたが、朝市協同組合があるので、今は漁港をお借りしている使用料として年間 50 万支払っている。継続させるためには駐車場整備（交通渋滞）や遊漁船を利用する方達との調整、開催後の清掃活動が大事であるため、毎月業者が行う漁港清掃の日、毎月 10 日は朝市出展者が一緒になって清掃に参加する取り決めをしている。問題点としてはふるさと納税の考え方やキャッシュレスの取組みが課題である。
- ⑧ 「港の朝市」の取組みに対して市民からの反応は、いすみ市の知名度が向上していることや、港周辺の賑わいの創出ができていることは良い取組みと評価を得ている。

## 【所感】

- 大原漁港を見て驚いたことは、停泊している漁船は小型であるがその数の多さで50隻以上はあったことである。漁港周辺の国道沿いには魚の直売店や飲食店が点在し、令和2年のものだが水揚げ量は99,143トン全国8位がうなずける光景であった。
- 当初は月2回の開催であったが、認知されやすいようにと基本毎週日曜日の午前で開催としている。ホームページの案内も利用者目線で分かりやすく構成され、ほしい情報が得やすく主催者視点ではなく利用者視点での姿勢を視察から感じることができた。
- いすみ市の沖合は暖流の黒潮と寒流の親潮とが合流し豊富な漁場で、魚礁も東京ドーム2700個分も整備されているとのこと。藻場の減少など魚が生育するための環境も重要と感じた。五島視察における浮体式洋上風力発電所は魚のよき魚礁になってことから魚礁のための魚礁を考えるのではなく先を見据えたビジョンをもった水産業の振興が重要と感じた。
- 浜田市においても「あじ祭」など活性化の動きがある。関係者の方々の熱意を成果につなげられるように協力して浜田市における「港の朝市」も含めた方策を検討していきたい。



## (3) 全国オーガニック給食協議会について

### ◆「全国オーガニック給食協議会」について

#### ① 協議会の設立と現状について

2022年10月第1回全国オーガニック給食フォーラムが東京都で開催され翌23年6月、6市町村、4JA、生協、1市民団体が発起人となり、太田洋千葉県いすみ市長を代表理事として、全国の市町村、JA、生協、市民グループ、有志者で構成される全国オーガニック給食協議会が発足。2024年7月19日現在、会員総数は、市町村38、JA及び農業関係団体26、生協及び流通関係団体25、市民団体19、個人241。

#### ② 活動内容として

総会(年1回)、先進地視察研修会(年1回)、全国オーガニック給食フォーラム(2年に1回)、テーマ別フォーラム(2年に1回)の開催、会報誌の発行(年2回)。

#### ③ 協議会が目指すオーガニック給食の基準レベルについて

地元産へのこだわりについては、有機JAS認証を取得した農産物に限らず、転換期間中農作物などもオーガニック給食の範囲としている。市町村産、近隣産、都道府県内産、国産が優先順位。オーガニックであれば外国産でもどこ産でもよいとは考えていない。

#### ③ オーガニック給食の無償化による市の負担について

令和6年度の食材費(賄材料費)は1億5247万3千円。オーガニック食材導入に係るかかりまし経費は精白米(31トン〈原料玄米で35トン〉):466万円、野菜(4トン):250万円。

④ 給食用有機米の生産量について

令和5年産の全生産量は143トン、うち給食へ35トン供給。購入金額は精白米430円/kg、給食センターがJAいすみより購入、生産農家数は28戸(18経営体)。

⑤ 有機米の次に取り組む農産品について

にんじん、たまねぎ、じゃがいも、だいこん、ねぎ。

## ◆ 「小さな営農組合と有機稲作・学校給食」矢澤喜久雄氏講演の要旨

### I 峰谷(みねや) 営農組合の設立について

◇峰谷集落:平均60数aほどの小さな農村集落。全戸が第2種兼業農家。

◇1993年(平成5年)頃～

- ・個々の農家が農業を続けることが困難な状況。集落の将来について協議して確認。

①集落の農業=集落1農場方式の営農組合を設立して進める。

②基盤整備を実施する。

◇2004年(平成16年)1月1日 峰谷営農組合(任意団体)設立、営農活動開始。

- ・設立の精神=集落と農地を守るために

- ・営農活動の基本

①農薬使用はできるだけ減らす=減農薬以上の栽培

千葉県特別栽培農産物認証制度「ちばエコ」指定産地

②地域貢献・活性化の視点を持つ

### II 農事組合法人「みねやの里」への転換について

1 設立年月日 2016年(平成28年)6月1日

2 組合員 21名(21戸)

3 営農活動: 基本的な理念は、旧峰谷営農組合の理念を引き継いでいる。

### III 「みねやの里」と有機稲作・学校給食の関わりについて

1 有機稲作に取り組んだ契機

◇2012年(平成24年)のいすみ市「自然と共生する里づくり連絡協議会」の設立。

- ・兵庫県豊岡市がモデル

- ・当初は2つの連絡部会で構成

自然環境保全・生物多様性連絡部会 (通称:環境部会)

環境保全型農業連絡部会 (通称:農業部会)

◇当時、峰谷集落と営農組合の将来を展望し、新たな取組の必要性を感じていた。

- ・「自然と共生する里づくりプロジェクト(コウノトリも住める環境づくり)」は、  
(=具体的には、有機稲作に取り組むこと)

⇒峰谷集落・営農組合と地域農業の維持・活性化の可能性があった。

⇒営農組合という特性を活かし「無農薬の米づくり」に挑戦することを決めた。

- 2 2013年 農薬・化学肥料不使用の米作りに挑戦(22アール)
  - ・雑草が多く、除草作業に大変な労力と時間を要した。
  - ＝雑草の問題が解決されなければ無農薬栽培を広げるのは難しいことから「有機稲作を学ぶ必要がある」と市長に提案。
- 3 有機稲作モデル事業 2014～2016年
  - ①民間稲作研究所の故稲葉先生の指導で有機稲作を学ぶ。  
無農薬・無化学肥料の米づくりに展望が持てた。
  - ②有機転換への経済的支援

#### IV 学校給食有機米 100%への流れについて

- ◇モデル事業1年目の収穫は、農業部会の農家で4トン。販路が問題になった。
  - ・みねやの里(当時:峰谷営農組合)は「いすみ市らしい取組は何か」「有機稲作に取り組む意味は何か」を基本に考え、学校給食で成長盛りの子どもたちに食べてもらうのが最善。
 

- ①子どもたちの健全な成長に貢献することの絶対的価値。
    - ②子どもたちが自分の住むいすみ市の農業や食、環境などについて学ぶ機会になる。
    - ③共感・支持から、有機農業の「公共的価値」に対する認識が広がることによって、いすみ市の認知度を向上させ地域の活性化につなげることができる。
- ◇「学校給食への有機米提供」を市長に提案。
  - ⇒市長が決断し、2015年度から、学校給食への提供が段階的に始まる。
- ◇給食への提供が始まって、「学校給食全量有機米」を市長に提案。
  - ・市長が承諾し「学校給食有機米 100%を目指す」と表明。
  - ⇒生産者は大変励まされ、有機稲作に取り組む農家も増えていった。
- ◇2017年秋の収穫で「学校給食全量有機米」を実現

#### V 有機稲作 10年について

- ◇有機農業を広げるポイントの一つは「公共調達」である。
- ◇いすみ市の有機稲作を進めた要因

- ①農業部会(生産者)が地域社会を維持するために一歩踏み出したこと
  - ②農業部会で集团的・組織的に先進地から学んだこと
  - ③有機米の学校給食での使用による生産意欲の向上と販路確保
  - ④推進者である農林課・事務局との緊密な連携

#### 【所感】

- ・浜田市は、オーガニックビレッジ宣言をして有機農業に取り組んでいるが、実感できる成果は感じられていない。これに対し、いすみ市は2015年に学校給食への有機米使用を開始した。学校給食における有機米使用率は、2015年15%であったが2016年40%、2017年70%、2018年100%と加速度的に伸びてわずか4年間で小学校9校、中学校3校への学校給食有機米100%を実現している。さらにブランド米「いすみっこ」を生み出して有機米生産量も2021年には年間110トン(当初は4トンから)を

達成している。学校給食に有機米を提供することが稲作生産者の生産意欲を向上させ、作っても買い手があるという販路の確保も生産増につながった要因とを感じる。

- ・ 無農薬にすることによって水田の生態系が豊かになり害虫を捕食するヤゴやカエルなどの生き物の多くなる。2023年カメムシの大量発生が話題となったが、有機米をつくる地域ではそのようなことは無かったとのことである。農薬を使わなければ経費と手間が省け、ブランド価値も高まり高値で販売できる優位性を感じた。
- ・ 稲作では雑草の除去が大変であるが、田植えの30日前に水を張り雑草を発芽させ、3日前に代掻きをして水田に2～3cmのトロトロの層を形成させて発芽を抑制させるとのことであった。組織的集団的な学習が効率的な農作業につながっているという。科学的学びの重要性を感じた。
- ・ そもそもは地域社会や稲作農業を守る手段として有機米生産を地域で選択したのが始まりである。農家にとって販路の確保を心配であったが学校給食に有機米を導入という市長の判断、それを実現させる関係者の関係性が大きな要因とを感じる。
- ・ 地産地消による活性化や環境負荷の軽減、地域のブランド化にもつなげており、生産者にも消費者にも地球環境にもよい農業の新たな活路として実現に向けて検討していきたい。
- ・ 2023年6月に設立された全国オーガニック給食協議会には、出雲市と江津市が参加している。オーガニックビレッジ宣言をして有機農業の推進に取り組んでいる浜田市もこの動きに参加すべきと考えるので、浜田市の考え方を聞きたいと感じた。



学校給食有機米100%への流れについての講演の様子



有機米の水田を後方に

#### (4) 練馬区立石神井公園ふるさと文化館について

##### ◆練馬区の概要について

- ・ 東京区部の北西部に位置する特別区
- ・ 人口；約75万7千人（令和6年7月現在）、面積；48.08 km<sup>2</sup>
- ・ 緑の多い閑静な住宅街で上智大学などの4つの大学キャンパスがある
- ・ 新たな地下鉄線の開通に伴ってマンション建設ラッシュに沸く
- ・ 区内全域が武蔵野台地に属し埼玉県南部とともに今ものどかな風景が残る
- ・ 手塚治虫のプロダクションなどがあったことなどからアニメ企業の集積地

## 1. ふるさと文化館の概要について

練馬区の伝統文化を生かし、新たな地域文化を創造するため、観光振興にも寄与する博物館機能を有する**生涯学習施設**として、練馬区立石神井プール敷地に平成22年3月28日に開設（前身は旧練馬郷土資料館）

### (1) 沿革

平成17年10月	(仮称)「ふるさと文化館」整備検討懇話会が「伝統文化を活かし区民が誇れる地域文化を創造する拠点にする」ことを提言
同年10月	基本構想策定委員会を設置
平成18年5月	建設基本構想策定
同年5月	建設準備委員会を設置。展示、運営、建設設計等の検討着手
平成19年3月	総合基本設計完了 4月建築実施設計・展示実施設計着手
平成20年4月	旧内田家住宅復元移転設計着手
6月7月	新築工事着手、展示工事着手
平成21年6月	石神井公園ふるさと館条例制定
7月	旧内田家住宅復元移転新築工事着手
11月	石神井公園ふるさと館竣工
平成22年3月	旧内田家住宅竣工、石神井公園ふるさと館開館
平成26年4月	公益財団法人練馬区文化振興協会が指定管理として運営開始

### (2) 敷地、構造と規模

敷地面積 3,562.71 m<sup>2</sup> 鉄骨造 地上2階建て  
延べ床面積 3,274.71 m<sup>2</sup> (既存ポンプ室 60.75 m<sup>2</sup>)

展示スペース 1042 m <sup>2</sup>	常設展示室	502 m <sup>2</sup>
	企画展示室	179 m <sup>2</sup>
	わがまち練馬情報コーナー1	224 m <sup>2</sup>
	わがまち練馬情報コーナー2	137 m <sup>2</sup>
収蔵スペース 468 m <sup>2</sup>	特別収蔵庫	23 m <sup>2</sup>
	一般収蔵庫1	136 m <sup>2</sup>
	一般収蔵庫2	67 m <sup>2</sup>
	荷捌き室1	115 m <sup>2</sup>
	荷捌き室2	127 m <sup>2</sup>

## 2. ふるさと文化館建築のコンセプトについて

### ① 建設に至るまでの経緯

- ・平成17年10月 (仮称)「ふるさと文化館」整備検討懇話会が「伝統文化を活かし区民が誇れる地域文化を創造する拠点にする」ことを提言

### ② ふるさと文化館本体の建設費用

- ・建物は約15億2千万円、情報展示は約1億8千万円、古民家移設は約1億円

## 3. 常設展示場などの区民の活用状況について

### ① 施設の利用状況について

・紙のおもちゃがいっぱい 北原コレクション 観覧者総数 4,214 人(アンケート 846 人回収率 20%)	R 5, 9, 16(土)～11, 5(日)
・産業で振り返る練馬の近代 観覧者 3,223 人(アンケート 545 人回収率 17%)	R 5, 4, 8(土)～6, 4(日)
・田中小実昌 物語を越えた作家 観覧者 3,160 人(アンケート 774 人回収率 24%)	R 5, 6, 17(土)～8, 13(日)
・ナニコレ!ねりまコレクション収蔵品のなぞを解明しよう 観覧者 7,746 人(アンケート 608 人回収率 17%)	R 6, 1, 20(土)～3, 17(日)

② 常設展示施設等に対する区民の評価について

来場者は 50 代から 70 代が多い、練馬区内小学校 69 校の社会科見学  
企画展示は職員(学芸員)が企画し、地域が身近に感じる展示に重点を置く

・紙のおもちゃがいっぱい 北原コレクション 知ったきっかけ 当館 17%、ポスターチラシ 34%、ねりま区報 18% 展示の内容 大変満足 47%、満足 47% 解説文 大変良い 36%、良い 54% 性別 43/56W 居住地 区内 64%、都内 23% 展示の見やすさ 大変良い 44%、良い 51% 回答者の年代 50 代 20%、60 代 25%、70 代 23%	R 5, 9, 16(土)～11, 5(日)
・産業で振り返る練馬の近代 知ったきっかけ 当館 29%、ポスターチラシ 21%、ねりま区報 10% 展示の内容 大変満足 30%、満足 61% 解説文 大変良い 29%、良い 61% 性別 57M/41 居住地 区内 61%、都内 25% 展示の見やすさ 大変良い 30%、良い 60% 回答者の年代 50 代 27%、60 代 22%、70 代 19%	R 5, 4, 8(土)～6, 4(日)
・田中小実昌 物語を越えた作家 知ったきっかけ 当館 19%、ポスターチラシ 37%、ねりま区報 14% 展示の内容 大変満足 41%、満足 53% 解説文 大変良い 38% 良い 56% 性別 65M/33 居住地 区内 53%、都内 34% 展示の見やすさ 大変良い 38%、良い 56% 回答者の年代 50 代 23%、60 代 28%、70 代 24%	R 5, 6, 17(土)～8, 13(日)
・ナニコレ!ねりまコレクション収蔵品のなぞを解明しよう 知ったきっかけ 当館 22%、ポスターチラシ 27%、ねりま区報 13% 展示の内容 大変満足 51%、満足 46% 解説文 大変良い 49%、良い 48% 性別 56M/42 居住地 区内 69%、都内 23% 展示の見やすさ 大変良い 49%、良い 47% 回答者の年代 50 代 25%、60 代 26%、70 代 19%	R 6, 1, 20(土)～3, 17(日)

③ 過去の展示内容について

- ・常設展示のほか、企画展示が年 4 回。その他会議室の活用(地域団体—ワークショップ)
- ・生きがいを楽しむサポーター制度(サポーターと来場者との会話を楽しむ)  
—展示説明に地域サポーター77 名登録(ボランティア)の参画

#### 4. 運営について

##### ① 運営体制について

- ・直性管理から指定管理(公益財団法人練馬区文化振興協会)に移行  
(平成 26 年 4 月)
- ・職員 20 名弱

##### ② 年間の運営維持費について

- ・維持管理経費 1 億 9 千 3 百万円  
(人件費 5 千 3 百万円、建物管理委託費 6 千 8 百万円)

##### ③ 文化財等の収蔵施設の規模について

- ・常設展示面積 1,045 m<sup>2</sup>、収蔵面積 468 m<sup>2</sup>(温度湿度管理)の約 1 / 2 (45%)の収蔵スペース

##### ④ 観覧料及び使用料(H27 年 10 月→H29 年 2 月)について

- ・小学生中学生 500 円、高校生及び大学生 1,000 円、一般 1,000 円
- ・多目的会議室 1500 円(午前)/2000 円(午後)、会議室 1500 円/1600 円
- ・展示室 9 時から 18 時 2700 円 情報コーナーギャラリー 900 円

##### ⑤ 運営上の課題について

- ・常設展示室を 15 年に一回の組替えからの収蔵スペースの確保
- ・昭和から平成・令和に移行していく新たな展示の考察
- ・光熱費節減のための LED 化へ更新
- ・経年劣化からの展示品の修繕費用

#### 【所感】

- ・館内には、常設展示室・企画展示室・練馬情報コーナー・交流スペース・レストラン・会議室があり、地域文化を創造し観光振興にも寄与する博物館機能を有する**生涯学習施設として整っていると感じた。**
- ・練馬情報コーナーでは公園内でみられる鳥や昆虫や植物、練馬の名所や散策マップや伝統工芸などが紹介されている。もう 1 つの情報コーナーはギャラリーとして絵や写真や区民の作品が展示され文化の発信がなされていた。
- ・レストランは武蔵野うどんに特化したメニューでネギや調味料は地元食材に拘り提供し都会の施設内レストランとは思えなかった。
- ・収蔵スペースも視察させてもらった。副館長からは収蔵庫の面積を問題にすることがあるが収蔵品の保管のために温度や湿度の管理をするための機械を設置するスペースを軽視することがあるので留意されたいとの助言をいただいた。年々増加する収蔵品を保管する収蔵庫のスペースは問題意識を持っていたが機械室スペースは盲点であったと感じた。
- ・ふるさと文化館に属する学芸員だけで 6 名が配置され、各学芸員が研究した事項が企画展示に創っており学芸員の充実が歴史の継承に大きな役割を果たしていることを実感した。担当していただいた女性学芸員は庄屋の古文書を研究中とのことであった。農家の庶民の暮らしぶりが解明されることと期待した。

- ・ 浜田市においては市民の財産である文化財を保管保全する施設が未改修であるため文化財を守り研究して後世に引き継ぐことができていない。拠点がないため学芸員の育成も十分ではないと感じている。また、学芸員の不足は文化の発信にも支障をきたし石見神楽の伝統文化の発展にも影響を生じていると感じる。地域の宝としての文化を守るためにも合意形成を図れるようにあるべき姿を提言していきたい。



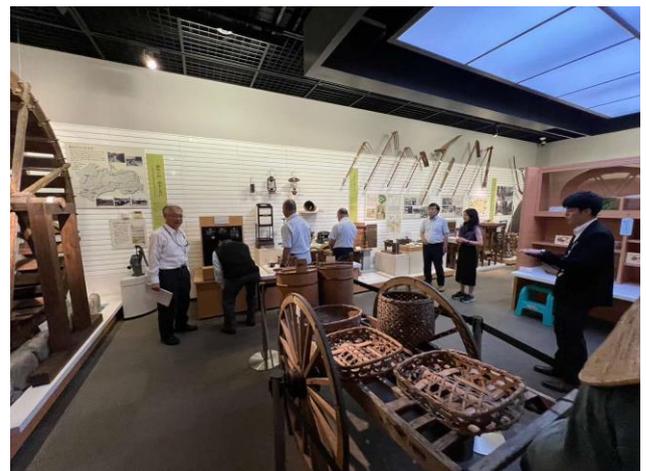
エントランスに隣接する練馬情報コーナーの様子



レストラン内の地元特産品の展示販



常設展示室の練馬大根のつける樽をバックに



常設展示室の内部の様子